

新聞に親しみを持ち、活用する児童の育成

丹波市立春日部小学校 校長 谷口 耕平
教諭 藤田 隆太

1. はじめに

本校はN I Eの実践指定校となり、2年目である。実践前の段階では新聞を購入している家庭が少なくなってきたおり、新聞に触れる機会の少ない児童が多くいる実態が分かった。そこで、「新聞に親しみを持ち、活用する児童の育成」をテーマとして昨年度、実践を行った。新聞の掲示スペースを設けたり、授業実践を行ったりすることを通して、新聞に興味を持たせることができたと感じている。

しかし、昨年度は成果を検証できる取り組みが行えず、指導方法についての研修や討議も十分に行えていなかった点などが課題となった。

そこで本年度のテーマを「新聞に親しみを持ち、活用する児童の育成」として昨年の反省を踏まえ、児童にアンケートを取り実践の評価を行うこと、そして各学年での授業をはじめ、委員会活動や、特別支援学級などでも新聞を使った学習を実施、より全校で積極的に取り組んでいった。

2. 具体的な取り組みに向けて

《授業実践に向けて》

N I Eの実践を行うことが教師にとって負担とならないよう、既存の教育課程の中に「新聞を使った学習」をどんどん取り入れていこうとの方針で実践を行った。ポスターなどで作品を作る際、新聞の見出しや構成を参考にして学習したり、カタカナを学習した後に新聞で「カタカナ見つけ」をしたりなど、無理なく進めることが積極的なN I Eの推進になると考えた。

《環境整備》

昨年度から1階と2階の中央廊下に、誰でも読めるように「新聞コーナー」を設置した。新聞は毎朝、児童が委員会活動で取り替えた。古い新聞は収納ボックスに残し、誰でも自由に読んだり切り抜きをしたりしても良いこととした。



3. 授業実践

《ひまわり学級》

ひまわり学級では、ニュースについて関心を持つことや、「言葉の学習」の一環として毎朝、新聞に目を通した。中でも新聞のクイズコーナーを楽しんで、熱心に問題に取り組めた。また「気になるニュース」について話し合うなど、新聞をコミュニケーションのツールとして生かすことができた。



《委員会》

掲示委員会でも積極的に新聞を使った。活動内容は、校内新聞を毎月作成する、新聞の切り抜き記事を掲示する、学校に届く新聞を毎日交換する、季節の掲示物を作ることである。

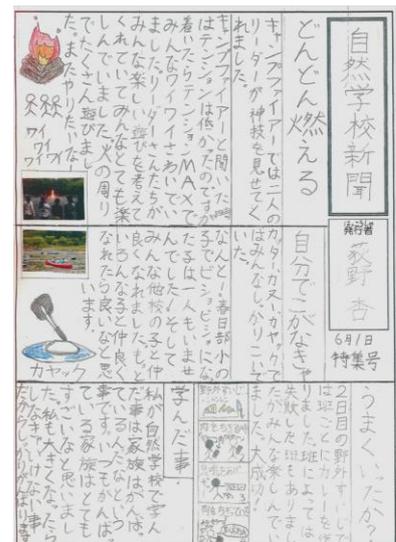
校内新聞では、毎月の出来事を写真付きで紹介している。5W1Hを意識して書き、低学年の子にも分かるように読み仮名を付けており、子どもたちも楽しみにして読んでいた。また新聞の中から自分の気になった記事を切り抜き、廊下に掲示した。子どもたちの関心を引きやすく、熱心に見ている児童も多かった。



《5年生》

国語科の「新聞記事を読み比べよう」の単元で新聞製作学習に取り組んだ。この学習では、自然学校で体験し、学んだ事柄を新聞にしてまとめた。

まず、単元の目標である「記事と写真との関係に注意しながら新聞記事を読み比べること」に目を向けて、新聞記事には書き手の意図がある点を理解し、それを表現するにはどのような工夫がされているかを考えさせた。また、「見出し」「小見出し」「リード」をどのようにすれば、読み手の興味・関心を引き出せるかを考えて書かせた。出来上がった作品は、お互いの学び合いができるように廊下に掲示し、オープン参観日の時には多くの方に読んでいただいた。



《2年生》

生活科の「町たんけん」での体験を新聞形式にしてまとめた。初めに、新聞の良いところを子どもたちに考えさせ、4つにまとめた。①見出しが大きな字になっている ②レイアウトがページによって違う ③各新聞社によって写真の使われ方が違う ④写真の存在によって分かりやすくなっている—の4つである。

この4点に気を付けて「町たんけん」に行った感想や知った知識をまとめることができた。また出来上がった新聞を使って地域の方に発表した。とても好評を頂き、子どもたちは新聞の良さである「誰もが見やすく」「分かりやすく」することの大切さを実感できた。



《6年生》

総合的な学習の時間で「平和」について学習を進めた。その中で、夏休みの家庭学習として平和に関する新聞記事を集めるスクラップに取り組んだ。本年度は、戦後70年の節目に当たるため平和に関する記事が多数掲載されており、児童も意欲的に新聞を読み、平和に関する記事を探し出していた。また、見つけた新聞を切り抜き、それについて自分の思いや感じたことを「一言つぶやき」として書いていった。

2学期、この新聞スクラップを国語科の「資料を生かして呼びかけよう」の単元に活用した。本単元は、集めた資料から情報を読み取り、自分の意見や考えを伝えるために、資料を効果的に活用することをねらいとしている。そこで、活用する資料を「平和新聞スクラップ」の記事から選び、学習を進めていった。平和について自分の考えを伝えるのにふさわしい記事を取捨選択し、その記事を基に説得力ある意見文にしていく学習に新聞が大いに役立った。

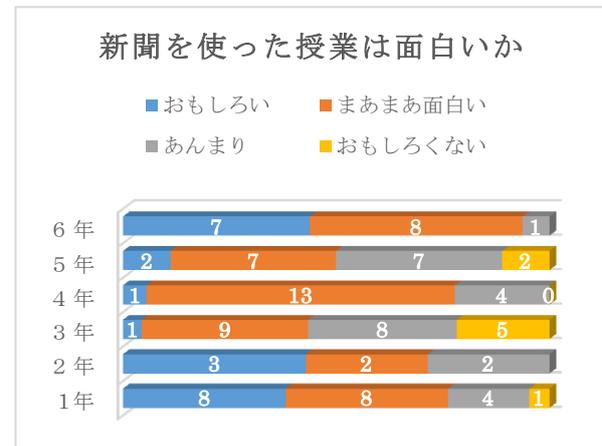
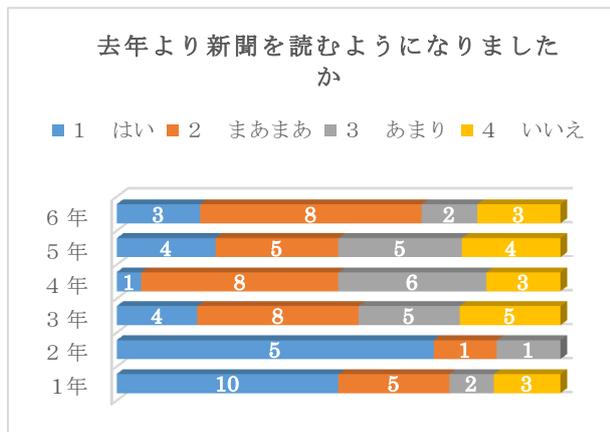
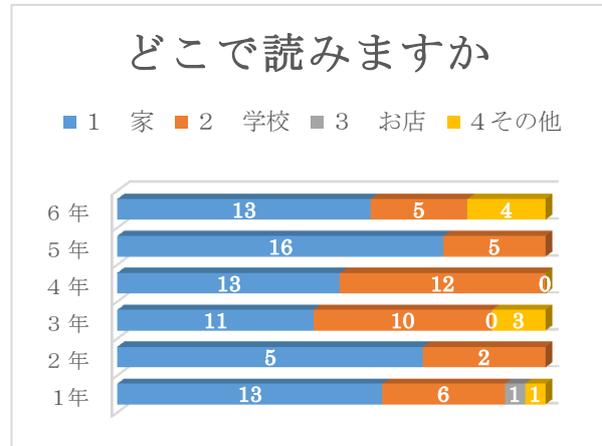
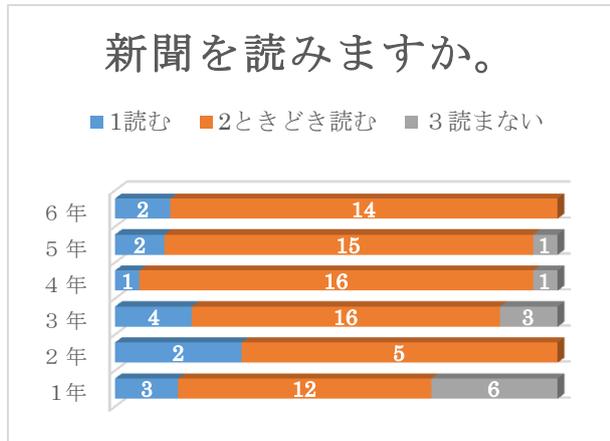


4. アンケート結果

アンケートの結果から、以前より新聞を読むようになった児童が増えた事実が分かる。家庭に新聞がない児童も、学校で新聞に触れる機会を持つことができた。また学校だけでなく家でも新聞を読むようになったことは大きな変化と言える。全児童にとって新聞が難しいものではなく、あるのが当たり前、読んでみると面

白いというように意識が変わってきていると感じる。

しかし、新聞を使った授業に面白みを感じている児童がそれほど多くないのは課題である。新聞には読むたびに新しい発見があり、さまざまな考え方に触れることができる。そういった新聞の魅力をどんどん伝えていきたいと思う。



5. 成果・課題、終わりにかけて…

本校では2年にわたり NIE の実践を進めてきた。新聞学習を通してノートを見やすくする技や、分かりやすくまとめる方法を身に付けた。高学年では自主勉強で新聞記事を切り抜き、感想を書いてくる児童もいた。授業を通して将来「新聞記者になりたい」という児童もいた。

本校の児童の課題は「表現力」である。新聞を読み、親しみ、自分で新聞を作ることによって「表現力」の育成に大きな力となった。また自ら主体的に新聞から情報を得ようとする児童が増えた。本校は学校目標に「子どもの主体性を育てる」ことを掲げており、新聞教育も大いに役立った。

教師は、まだまだ新聞を授業に生かす方法や技術を身に付けられておらず、児童に新聞の授業が楽しいと思わせられていない現状もある。これから、2年間で培った実践を生かし、児童に表現力や伝える力を身に付けさせていきたい。